

令和6年度 自己評価表(最終評価)

鳥取県立日野高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	地域の資源を活用し、未来に羽ばたくための学力や豊かな人間性を育み、社会の持続的発展に貢献できる人材を育成する
---------------------------	--

今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学びの推進 ○人間力の向上 ○地域活躍力の育成 ○魅力発信
-----------------	---

年度当初				評価結果(2)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的な学びの推進	学びに向かう意欲・意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで学習への取り組み姿勢に肯定的に回答した生徒が91%、学習の満足度は75.1%。一方で理解度という点で課題が見られる。 ○進路指導に関する満足度は73%、進路相談に親身になって応じてくれるとの回答が78.6%。担任面談に加えキャリア形成部も面談を行い、個々の進路希望を把握し、早期に指導を始めた。 ○「人との出会いをとおして成長を感じている」とした生徒は前年度から4ポイント増。(R4:78.6% → R5:82.4%) ○授業関係で指導改善カードを受けた生徒は3名。(昨年度は8名) 	<ul style="list-style-type: none"> 【学校評価アンケート】(12月実施) ○学びに向かう意欲 <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒が95%以上 ・学習の満足度80%以上 ○学びに向かう意義 <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に対する満足度75%以上 ○意欲・意義の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・人との出会いを通して成長を感じている85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の理解度アップに向け基礎・基本を徹底する。 ○授業に関する生徒アンケートを7月に実施し、授業改善につなげる。 ○「総合探究(日野探究II)」では、外部とのやり取りでも成長するが、グループ内での役割を明確にすることを重視する。 ○学習活動の基本的な姿勢となる「学びのルール」について周知・徹底し、教室が質の高い学びを実現できる環境になるように生徒に促す。 ○引き続き、指導改善カードの運用と並行しながら、特にその場での注意指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学校評価アンケート】(12月実施) ○学びに向かう意欲 <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒(問3～問5の平均)92.2% ・学習の満足度(問6)85.2% ○学びに向かう意義 <ul style="list-style-type: none"> ・授業等の指導カードを受ける生徒減少 ○意欲・意義の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に対する満足度(問13・問14の平均)80.3% ○意欲・意義の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・人との出会いを通して成長を感じている(問9)91.4% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びのルール」を徹底する。 ○面接指導を早い時期に実施し、生徒の面接力を高める。 ○取組姿勢は良好だが理解度には課題がある。職員間の授業研究を積極的に進め、理解度を高める授業改善が必要。
	授業のICT化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○授業公開週間を7月、12月に実施。7月には県外推進校から、ICT活用に関して先進的な取り組みを行っている講師を招聘し研修を実施した。併せて県外推進校の授業研究会に2名の教員が参加し、本校研修で還元した。 ○持ち運び用パソコンを1台購入し2台とした。日常的にICTを活用している教員は70%。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協同学習とICT活用 <ul style="list-style-type: none"> ・教員間での授業参観と事後の授業検討会を年2回以上実施。 ・ICTを活用した協同的な学びの実践 【ICT活用・指導力調査】 ○ICT活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して協同的な学習活動を取り入れた授業を行っている教員が90%以上。 ・探究学習のICT活用を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○協同的な学びの実現のためのICT活用研修を行う。研修によって得られた知識や技術を生かした授業改善を行い、生徒の個別最適な学び、協同的な学びを実現する。 ○授業だけでなく、LHRや学校行事などあらゆる場面で、ICTを有効活用した活動を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○県外から講師を招聘し、研修会を実施。 ○授業公開週間7月・11月実施。 ○ICTを活用して協同的な学習活動を取り入れた授業を行っている教員81.8%(27人/33人) ○1年次「産業社会と人間」、2年次「日野探究I」、3年次「日野探究II」の授業はもとより、発表会でICT活用を促進した。 ○生徒個人のクロームブックの破損・故障が15件発生。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教員間で授業や校務に生かすことのできるICTに関する技術や知識を共有する。 ○入学時にクロームブックの修繕手続きや保障を教示する。
2 人間力の向上	人と関わる力の増大	<ul style="list-style-type: none"> ○「自尊感情や自己有用感」10ポイントの増。(R4:45.2% → R5:55.3%) ○「他者理解において成長」3ポイントの増。(R4:79.8% → R5:82.4%) ○「人との出会いをとおして成長」4ポイントの増。(R4:78.6% → R5:82.4%) ○探究学習や各系列の取組みの中で、生徒が活き活きと活動し、年間をとおして成長した。 ○自己理解・他者理解講演会(1年・7月)、性教育講演会(2年・12月)、性に関する指導LHR(全校・12月)、ストレスマネジメント授業(全校)を実施し、多くの生徒が自己の成長につながったと実感していた。 ○食育講演会、食育映画鑑賞学習会を実施したが、朝食を全く摂らない生徒が14.1%昨年度から7ポイントの増。 ○生徒指導案は減少。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学校評価アンケート】 ○人と関わる力 <ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情や自己有用感60%以上 ・他者理解において成長85%以上 ・人との出会いを通して成長85%以上 【食事に関するアンケート】 ○生活習慣 <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を全くとらない生徒が10%未満 ○規範意識 <ul style="list-style-type: none"> ・暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が0件 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、振り返りや面談をとおして、自らの言葉で状況や思いを整理させる時間を設けるようにする。 ○多様化する生徒に対し、日頃の見守り、情報共有、個別の支援が重要である。 ○引き続き、アンテナを高くして生徒の状況の把握に努め、保護者と連携し迅速に対応する。 ○引き続き、自尊感情や自己有用感を高めることを目的とした講演会などを実施するとともに、個別の支援に努める。 ○保健だよりの掲示、保健室での個別指導、保健委員からの呼びかけなどをとおして、健康管理及び食に関する啓発活動を継続する。 ○「総合探究(日野探究II)」で、班内で協働するだけでなく、地域の方との交流もより重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学校評価アンケート】 ○人と関わる力 <ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情や自己有用感(問10)54.3% ・他者理解において成長(問8)91.4% ・人との出会いを通して成長(問9)91.4% 【食事に関するアンケート】 ○生活習慣 <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を全くとらない生徒9.2% ○規範意識 <ul style="list-style-type: none"> ・指導件数4件(軽微な事案) ○自己理解・他者理解講演会、性教育講演会、性に関する指導LHR、ストレスマネジメント授業、人権教育講演会及びLHR、デートDV予防学習会を実施し、感想から、多くの生徒が自己の成長や他者理解につながったと実感していた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情や自己有用感を高めることを目的とした講演会やLHRなどを実施するとともに、個別の支援に努める。 ○保健だよりの掲示、保健室での個別指導、保健委員からの呼びかけなどをとおして、食に関する啓発活動を推進する。 ○地域貢献を目的とした活動に積極的に取り組ませて、様々な人と関わる機会を作る。
3 地域活躍力の育成	地域で行動する意欲の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○「キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰」をR6.1月に受賞した。 ○「地域と連携した学びが充実」5ポイントの増。(R4:76.2% → R5:81.2%) ○生徒会執行部を中心に、学校祭、清掃、クラスの取組みで、生徒全員が大きく成長し、互いが協力して取組むことができた。 ○環境教育LHR(全校・4月)、ゴミ減量チャレンジ(各学期末)、ゴミ出さないDAY(6月・11月)、TEAS通信などで意識を高め、地域の清掃活動への参加や電気使用量の減少につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学校評価アンケート】 ○「地域と連携した学びが充実」85%以上 ○生徒が主体的かつ積極的に部活動、生徒会活動、学校行事、地域貢献活動等に取り組めるようになる。 ○地域の人材・資源を活用した授業等を実施し、地域に対して自分ができることを考えるようになる。 ○環境意識を高揚させ、前年の電気使用量、可燃ゴミの総量を超えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「産業社会と人間」と「総合探究(日野探究I・II)」をより系列の学びとつながりをもたせる。 ○感染症対策には十分留意しながら、これまで以上に積極的に地域に向いて地域との連携を強化し、地域貢献力の充実を図る。 ○環境教育LHR、ゴミ減量チャレンジ、ゴミ出さないDAY、地域の清掃活動などの環境意識を高める活動を継続する。 ○TEAS通信や環境委員による活動をおして、啓発活動を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学校評価アンケート】 ○「地域と連携した学びが充実」(問17)92.6% ○生徒会執行部を中心として、各学校行事の企画・運営で学校の活性化に努めるとともに、あいさつ運動、交通安全運動、清掃等の奉仕活動にも積極的に取り組み学校改善に大いに貢献した。 ○環境教育LHR、ゴミ減量チャレンジ、ゴミ出さないDAY、TEAS通信などをとおして環境意識を高めた。 ○環境委員がゴミの収集や分別、節電の呼びかけなどを行い、クラスの生徒への環境啓発を行った。電気の使用量は昨年度より微増、可燃ゴミの総量は減少。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間(日野探究I・II)」において、地域連携を促進する。 ○環境教育LHR、ゴミ減量チャレンジ、ゴミ出さないDAY、地域の清掃活動などの環境意識を高める活動を継続する。
4 魅力発信	表現力・PR能力の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○各授業内や「産業社会と人間」「日野探究I・II」における発表で自分の考えを整理し相手に伝える力が身についた。一方、考えをまとめ文章にすることが困難な生徒が多い。 ○自己や他者、地域の特色等を十分に理解し将来に結びつけて説明することに困難な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学校評価アンケート】 ○「入学当時と比べて成長」70%以上 【学びの成果発表会アンケート】 ○「各学年の成果発表」良い評価90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章力を向上させるため、図書館を積極活用し良質な文章に触れる機会を増やす。 ○各教科においてふりかえりシート等を活用し、文章化の習慣化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学校評価アンケート】 ○「入学当時と比べて成長」(問18)82.7% 【学びの成果発表会アンケート】 ○「各学年の成果発表」良い評価94% ○「産業社会と人間」「日野探究I・II」において、探究過程にあっても発表の機会を設け、他者に伝える力を育成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の能動性や理解度を把握する「ふりかえりシート」(例:英語)を設ける。
5 働き方改革の推進	勤務時間管理及び働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務は前年度比△6.3%。 ○時間外勤務の一人あたり月平均前年度△0.2時間 ○教職員のクラウドサービス利用に関する校内ルールを策定した。 ○部活動計画及び実施は適正に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務360時間越えの人数減。 ○適切な部活動指導の継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日野高版業務カイゼン計画を実行する。年度途中に効果検証を実施、さらに改善をする。 ○引き続き、担任業務や分掌業務の平準化を実施する。 ○職員の情報共有のため、クラウド上の掲示板を完成し活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務は前年度比(4月～1月)△15.9%。 ○時間外勤務の一人あたり月平均前年度(4月～1月)△0.9時間 ○ボトムアップされたカイゼン方策の多数が効果的であることが実証された。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○カイゼン計画を継続実施し、検証する。 ○クロームブック修理対応業務は県に移管する。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直

(100%)

(80%程度)

(60%程度)

(40%程度)

(30%以下)